

1. 2月のスルメイカ漁について

1) 全国の生鮮スルメイカの水揚げ動向

JAFIC 主要港における生鮮スルメイカの2022年2月の水揚げ量は211トンで、2000年以降の2月の水揚げ量としては、1月に引き続き最低であった。前月の268トンから2割減少、前年同月の518トンから6割減少した(図1、2)。

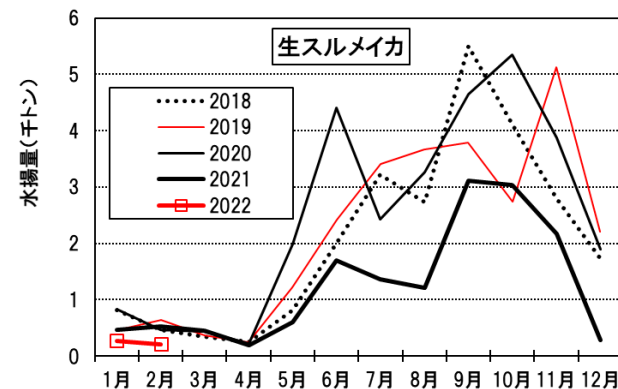


図1. 生鮮スルメイカ(全国)の月別水揚げ量

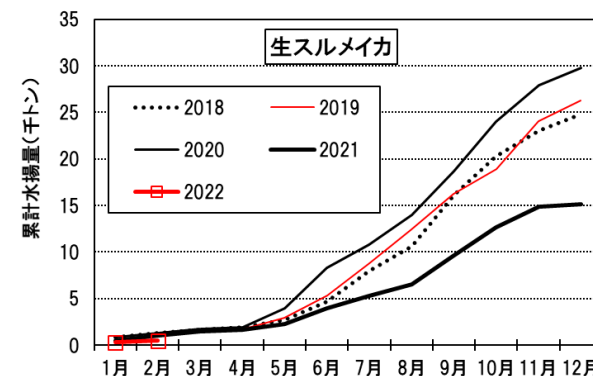


図2. 生鮮スルメイカ(全国)の累計水揚げ量

2) 生鮮スルメイカの月別平均価格の推移

2022年2月の生鮮スルメイカの月別平均価格は572円/kgで、前月から2%上げた(図3)。2020年2月、2021年2月並みの価格であった。

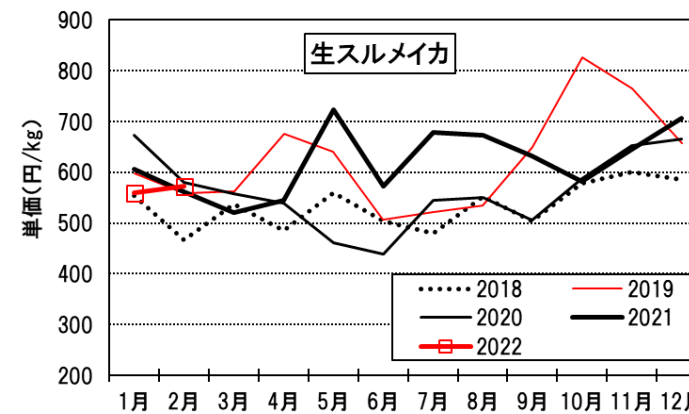


図3. 生鮮スルメイカ(全国)の月別平均価格(円/kg)

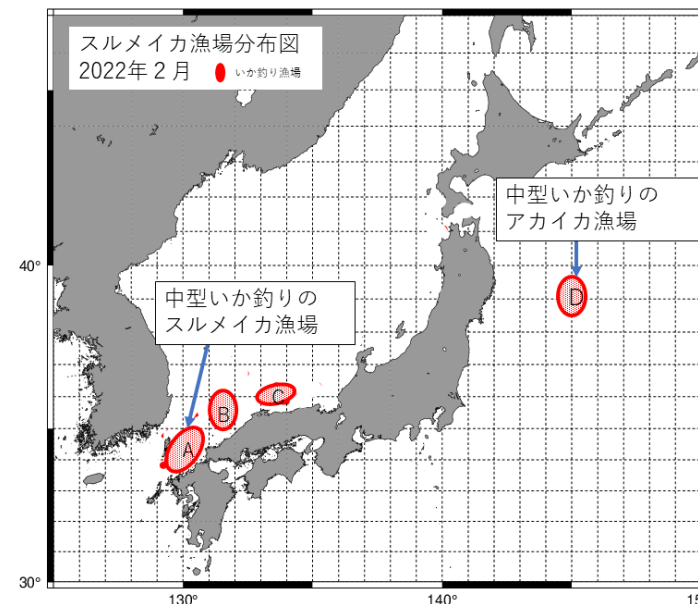


図4. スルメイカ及びアカイカの漁場分布図

3) 各地の漁場形成の特徴

中型いか釣り船(船凍)は、日本海の対馬東(図4のA)で、小型いか釣り船に混じってスルメイカ漁を行った。中型いか釣り船の日本海のスルメイカ操業は3~4月が禁漁期間で、2月末~3月初めに八戸や小木で今期の最終水揚げを行った。

小型いか釣り船によるスルメイカ漁は、山口県見島沖(図4のB)を中心に対馬・壱岐・隠岐などで操業した。

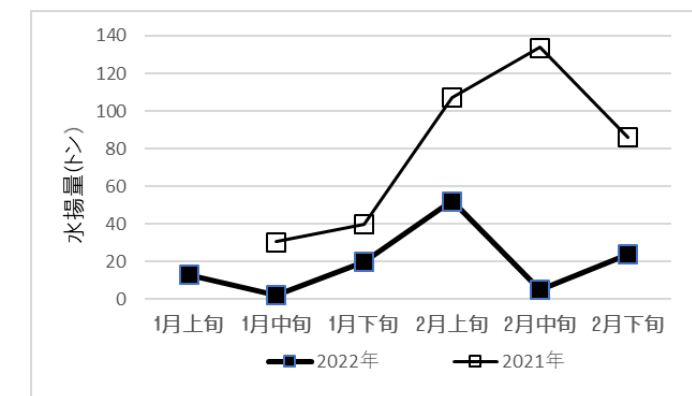


図5. 壱岐・対馬におけるスルメイカの旬別水揚げ量

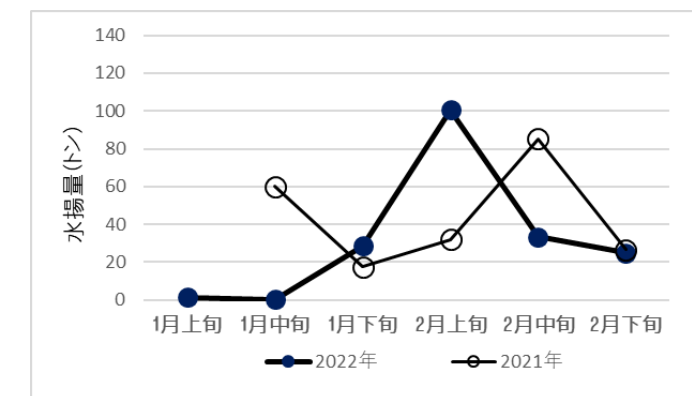


図6. 山陰におけるスルメイカの旬別水揚げ量

海面水温の低下により、壱岐・対馬では2月上旬に漁獲が一時的に上向いたものの、昨年同期の1/3の漁獲量に低

迷した（図 5）。一方、山陰（特牛・浜田・境港）では 2 月上旬に、去年同期より 1 旬早く南下群の来遊が見られたものの、2 月中旬以降失速した（図 6）。

また、富山湾の氷見等の定置網では、例年、1 月にスルメイカの入網が始まり、1 日 10 トン前後の入網があり、1 ～3 月に累計で 1.2 千トンの水揚げがある。今期は 1 月～3 月前半の累計水揚げ量は 500 トンと前年・例年の半分以下の漁獲量に留めた。（図 7）。

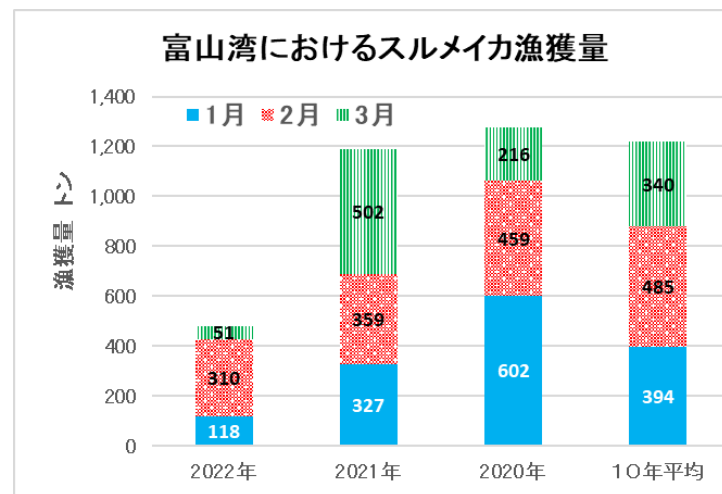


図 7. 富山湾における生鮮スルメイカ水揚げ量(出典:富山県水産情報システム)※2022 年は 3/14 現在の速報値

4)冷凍スルメイカの月別水揚げ状況

主要港における冷凍スルメイカの 2022 年 2 月の水揚げ量は 83 トンで、前月の 2 割減、前年同月の 2 割であった（図 8）。年内で操業を切り上げた船が大半で、年明けに操業した船は十数隻で、1 月後半～2 月前半には、大半が三陸近海でアカイカ漁を行なった。アカイカ漁を終えた船は、2 月下旬に日本海の対馬東沖でスルメイカ漁を行い、今期の操業を終えた。

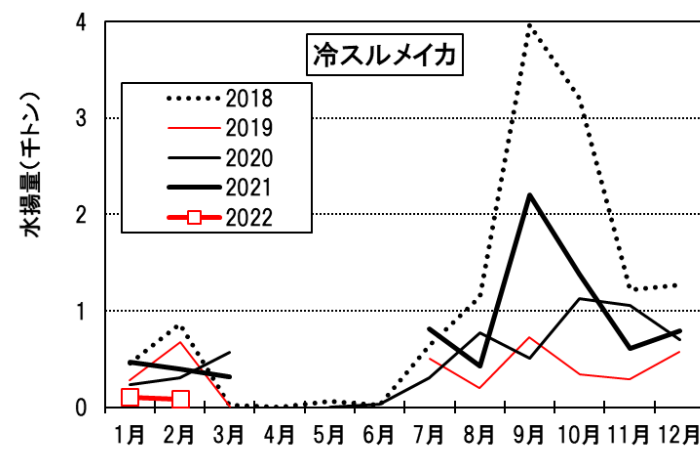


図 8. 冷凍スルメイカの月別水揚げ量

5)冷凍スルメイカの月別平均価格の推移

冷凍スルメイカの 2021 年の月別平均価格は 600 円/kg 台で推移していたが、2021 年 12 月に 862 円/kg、2022 年 1 月 827 円/kg、2 月 890 円/kg と、800 円/kg 台をつけて急騰し、2019 年 10 月～2020 年 3 月の千円/kg 台に次ぐ高価格帯となった（図 9）。

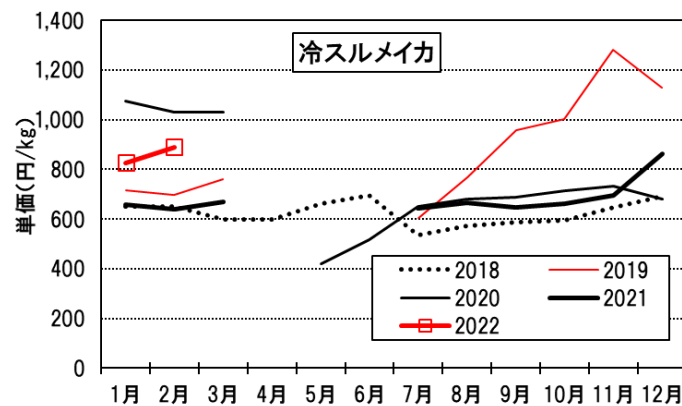


図 9. 冷凍スルメイカの月別平均価格の推移(円/kg)

2. 三陸沖のアカイカ冬季漁について

三陸近海（図 4 の D）では、アカイカ冬季漁が 1 月下旬

に始まり、計 11 隻が操業した。当初は 1 日 1 隻あたり 1 ～3 トンの好調な漁獲であったが、2 月に入ると時化が多く、2 月中旬には終漁した。アカイカ冬季漁の漁獲量は、194 トンと 4 年ぶりに三桁の漁獲量となり、八戸港に全量水揚げされた（図 10）。3 月上旬の最終水揚げ物の平均価格は 630 円/kg で、前年同期の 5 割高であった。開き耳取りは、751 円/kg の 1994 年以来の高価格を付けた（図 11）。

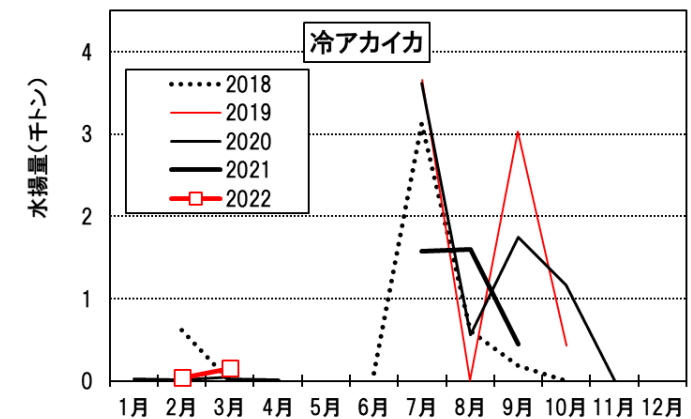


図 10. 冷凍アカイカの月別水揚げ量

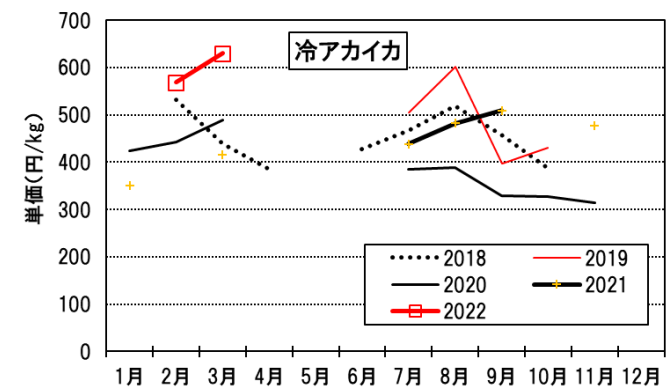


図 11. 冷凍アカイカの月別平均価格の推移(円/kg)

3. 今後の動向等について

国内のスルメイカ漁は、冷凍物を水揚げする中型いか釣

り船が禁漁期間に入ったことから、今後の水揚げは生鮮物のみとなる。3～4 月には生鮮スルメイカの水揚げの端境期となり、小型いか漁船の主漁場は産卵場周辺である対馬東沖～山陰沖のみとなり、漁獲量はさらに減少する（図 1 参照）。

秋季発生系群が索餌回遊を始めて北上し、能登半島沖（金沢港主体に水揚げ）で小型いか釣りの漁獲対象となり、まとまって獲られ始めるのが、例年、4 月末～5 月上旬からである。この頃には、今期の秋季発生系群の資源動向（稚イカの加入状況）が多少見えてくるので、今後注視したい。

（水産情報部 緑川 聡）